

バリアフリー投票の 取り組みを

飯島 正義



問 ①これまでの選挙で郵便投票ができる方は、要介護5など条件が厳しすぎます。対象拡大を国に申し入れすべきではないでしょうか。②市内19カ所の投票所は、車椅子の移動が可能のように段差などが解消されていますか。③吉川市長選挙の選挙当日の投票用紙は、候補者名が印刷された記号式投票を導入しています。他の選挙でも採用する考えはありますか。

答 ①国の制度なので動向を注視していきます。②集会所の3カ所はスロープがありませんが、人的配慮で介助し投票ができるようにしています。歩行が困難な方へ介助者を配置しています。③候補者が増えると文字が小さくなり判断しにくいいため、導入は考えていません。

◆子どもの居場所・児童館にエアコン設置を

問 小中学校体育館・総合体育館にエアコン設置が決定しましたが、児童館の遊戯室（体育館）へのエアコン設置計画について伺います。

答 災害時は遊戯室が避難所としても使われます。令和5年1月にエアコン設置の方針が決定、今後整備していきます。

高齢者等とペット問題について

稲葉 剛治



問 近年ペットの存在はより大きくなっている。一方でペットの飼育放棄など年々深刻な問題が起きていると耳にすることも増えている。

この背景には飼い主の方の高齢化や障害、経済的困窮、社会的孤立などの要因が複雑に絡み合っている場合がある。こうしたことに目を向けて取り組みを進める必要があると考えるが、見解と今後の取り組みについて伺う。また、関係部署間が連携できる体制も構築する必要があると考えるが見解は。

答 市では、エンディングノートなどを活用し、高齢者がお亡くなりになった後のことについて考えていただく終活の推進に取り組んでいるので、ペットが残された場合についても、終活の一環として考えていただけるようご案内していく。また、認知症などによって、ペットの世話が行き届かなくなり、衛生面や動物愛護の観点から、不適切な飼育状況が発生することも課題であると考えている。ペットの不適切な飼育も健康的かつ文化的な生活を脅かす課題であることを認識し、そのような状況を把握した際は、関係機関と連携を図り、解決に取り組む。

有機農業の推進について

岩崎 小百合



問 令和3年に国が、将来にわたって食料の安定供給を図る為に策定した「みどりの食料システム戦略」の中で、2050年までに有機農業を耕地面積の25%（100万ヘクタール）に拡大、2040年までに主要な品目を農業者の多くが取り組める次世代有機農業技術を確立するといった目標を掲げている。市内の耕地面積の内、有機農業の耕地面積の割合は。

答 日頃より情報交換を行っている有機農業者の耕地面積から算出すると約0.2%である。

問 今後の有機農業推進に向けた取り組みは。

答 今年3年に策定した「埼玉県環境負荷低減事業活動促進基本計画」に沿って県と協力・連携を図りながら検討する。

◆学校給食の地産地消について

問 令和4年度の吉川産の米、野菜の使用状況は。（頻度、量、献立、品目）

答 お米（コシヒカリ）は100%、野菜は11品目吉川産を使用。使用頻度の高い小松菜は85%以上、献立は月に10日程度、全体では半数以上の日で、吉川産野菜を使用している。

ワクチン接種券の一斉送付を止め、申請制に

吉川 敏幸



問 米国オハイオ州にある世界2位のクリーブランドクリニックの研究では、新型コロナワクチンを打つほど罹患することがデータで明らかになっている。また、名古屋大学の小島勢二名誉教授によれば、Our World in Dataのビッグデータを用いて超過死亡の要因を研究したところ、追加接種の回数が多いほど、超過死亡が多いことを示しているとしている。世界一ワクチンを打って、世界一コロナに罹患したのが日本である。今後も接種券の一斉送付をするのか。

答 様々な論文や研究データがあることは、本市としても承知している。それらは国が検証すべきものと考えている。接種対象者がメリット・デメリットを理解した上でご自身で判断し、円滑に打てるようにすることが重要であると考えている。今後も正しい情報と併せて接種券を送付する。

◆女性専用トイレの維持を

問 市は今後、女性専用トイレを廃止して新たに共用トイレを設置する考えはあるのか。

答 女性専用トイレの廃止は考えていない。